



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.5.10 号

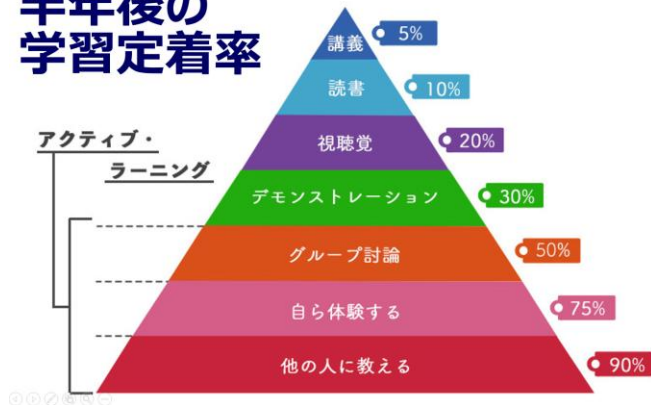
園主の鳥居徹也です。夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。※配信停止の方はお手数ですがメールまたはお電話でどうぞ(info@trepont.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園
電話:047-429-7231

異年齢保育の根拠「ラーニング・ピラミッド」

ラーニング・ピラミッド

半年後の 学習定着率



今回のテーマは「ラーニング・ピラミッド」です。アメリカ国立訓練研究所が作った学習定着率の仮説モデルです（一応の目安）。どんな学習をすると、半年後にその知識が定着するか図示したものです。

日本でも、新しい学習指導要領に「アクティブ・ラーニング」や「双方向・対話的で主体的な学び」などが記載されました。来るべきAI時代に備え、学校現場での模索が続きます。

ところでこのピラミッドですが、上から、「講義を（受け身で）聞く」は定着率が最も低かった5%となっています。以下、「読書」による知識のインプットは10%、ビデオ・写真などの「視聴覚教材」でのインプットは20%、壇上での「デモンストレーション」（劇とか？）でのインプットは30%です。ここまでは受け身（インプットオンリー）の学習です。

続いて、アウトプット中心の「アクティブ・ラーニング」になると効率が上がります。

「グループ討論」で学生同士が意見を双方向にやり取りすると学習定着率は50%。さらに「自ら体験」（学んだことを実際にやってみる）と75%。そして最も学習効果が上がるのが「他人に教える」90%です。

これをもしご家庭でのお子さんの学習に使うのならば…「指示」ではなく「問いかけ」をするといのです。

(×)「宿題やりなさい！」

(○)「今日はどんな勉強したの？」

「今日の勉強は難しかった」と言ってきたら、

(×)「きちんと復習しなさい！」

(○)「どうしたらいいと思う？」

ラーニング・ピラミッドは、異年齢保育の1つの理論的裏付けとなっています。「他の人に教える」：年長が年少にさまざまなアドバイスをすることで知識が定着します。このピラミッドの下の部分（アクティブ・ラーニング）を見ると、まさに幼児教育が日々行っていることだとわかります。

このアクティブ・ラーニングを推進した研究者の一人が、ハーバード大学のエリック・マズール氏です。

アクティブ・ラーニングの推進者
「反転授業」
「ピア・インストラクション」
「ジャストインタイム・ティーチング」

ハーバード大学物理学教授
エリック・マズール

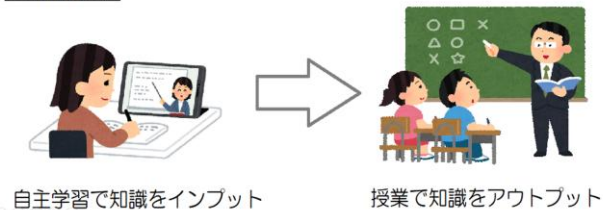


かつては講義形式の一方通行の授業をしていました。しかし次第に疑問を感じ始めます。与えられた問題には正答を出すものの、応用が利かない。これでは社会で役立たないのではと、「反転授業」を始めました。

通常



反転授業



上の「通常」では、まず授業で知識を与える（インプット）。その上で復習あるいはテストで確認する（アウトプット）。しかしその順序をひっくり返しました。まさに「反転」です。

まず家でビデオを見ながら予習（インプット）し、授業に参加する。

さらに「ピア(peer:仲間)・インストラクション」を思いつきます。あるとき、授業で何回説明しても学生が理解してくれなかった。ので、苦し紛れに「隣同士で話し合って」というと…数分で皆が理解できたのでした。



学生は相互に相談する過程で、質問や考えを口に出し、自分の頭で問題をプロセスする。「人に教えるのは最大の学びだ」とよく言われることである。理解

が進んでいる学生は、同級生の理解できていない点を模索、把握し、説明を試みることで、理解をさらに深めることができる。理解が十分にできていない学生は、同級生に自分がよく分からない点を分かりやすく説明しようとし、自分の理解できていない点の明確化を図る過程で、理解が進む。場合によっては、分からない点を説明しようとしているうちに、自分で分かってしまう。

続いて「ジャストインタイム・ティーチング」。家で事前にビデオを視聴し感じた疑問を、講義開始1時間前までに先生に送信します。その質問を中

心に、仲間同士の「ピア・インストラクション」で問題解決をします。一人の疑問は皆の理解に役立ちます。かゆいところに手の届く教え方の確立でした。

こうした手法に対し、つねに批判があるといえます。学生いわく「ちゃんと授業をしてほしい」「自分で教科書を読むためにお金を払っているのではない」。

しかしエリック・マズール氏の信念は揺らぎません。「単なる知識伝達ならば、優れた講義を録画しWEBに公開するだけでいい。そうではなくて、ライブの授業体験や仲間から学ぶ社会的体験こそが真の学習である」と。

さらには、こんな批判もあります。「ハーバードだから成り立つのではないですか?」。アクティブ・ラーニングの前提は、本人が事前に家で知識をインプットしてくる「意欲」が必要です。

前述したように、幼児教育でアクティブ・ラーニングが可能なのは、子どもたちに意欲がみなぎっているからです。みんなで話し合って取り組む、困っている子を助ける、体験的に学ぶ…いずれも私たち夏見台幼稚園・保育園の教育姿勢そのものです。

「評価」で比較され、ランキングされる学校教育の場で、意欲を失うことなく主体的に学ぶにはどうしたらいいのか? 学校教育（特に公教育）の変化はゆっくりです。子ども自身が意欲を持続できるよう応援する姿勢が求められます。

(終)

